

SONODA VISION 2030



園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

学長 三島明子

Message

経験を重ね 知識を知恵へ
自分を磨き 生きる力を高めて

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部は、1938年、地域社会の女子教育に貢献することを目的に、「捨我精進」を建学の精神として開学し、80余年の時を創りました。これまで社会で幅広く活躍し、自立する女性を育て、多くの有能な卒業生を社会に送り出してきました。このたび、2030年までの中長期計画を「SONODA VISION 2030」として公表いたします。

本学が実践する教育の最大の特徴は、「経験値教育」です。大学で学んだ知識を、具体的な経験を重ねることで社会のなかで活かし、生きていく知恵や力に変える学びです。これからますます時代は多様に変化し、複雑な社会となり、多くの課題に直面するでしょう。その時代を生きるためには、多彩な経験にもとづく、しなやかな強さが必要だと考えています。また、他者との「輪」を大切にし、人と人のつながりを深め、視野を広げることが大切です。本学は「源としてしなやかに、地域とともに、社会をきりひらく女性」を基本理念に地域・社会に必要とされる地(知)の拠点であり続けるために前進してまいります。

長期ビジョン 2021年度 → 2030年度

第1期 2021・2024年度 / 第2期 2025・2027年度 / 第3期 2028・2030年度

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部



学園のあゆみ

1938 年 「捨我精進」を建学の精神に園田高等女学校開校	1993 年 ニュージーランドに、SCC(そのだクワイストチャーチキャンパス)完成
1947 年 園田学園中学校開校	短期大学家政科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に名称変更
1948 年 園田学園高等学校開校	
1953 年 園田学園幼稚園開校	1994 年 大学文学部を国際文化学部(文化学科・言語コミュニケーション学科)に短期大学文科を国際文化学科に改組
1953 年 園田学園女子短期大学(家政科)開学	短期大学を園田学園女子大学短期大学部に名称変更
1966 年 園田学園女子大学(文学部国文学科・英文学科)開学	1995 年 開学30周年記念館完成
1968 年 短期大学に文科・幼児教育科開設	2002 年 大学に人間健康学部(総合健康学科・食物栄養学科・幼児教育学科)開設
1979 年 学園開放、公開講座開講	国際文化学科部に情報コミュニケーション学科開設
1980 年 オーストラリアのグリフィス大学(ブリスベン)と姉妹提携	2006 年 大学に未来デザイン学部文化創造学科開設
1981 年 大学附属 学が丘幼稚園(神戸市港水区)開園	人間健康学部人間看護学科開設
1983 年 大岡山グリーンキャンパス(兵庫県豊岡市)開設	2007 年 ニュージーランドのカンタベリー大学と学術交流協定調印
1985 年 図書館・情報教育センター完成	2008 年 大学に人間教育学部児童教育学科開設
1986 年 ニュージーランドのクワイストチャーチ教育大学と姉妹提携	2015 年 スポーツセンター完成
南太平洋のヤップ島から外洋カヌー「ベサワ号」航海で来日(ベサワ号は本学で永久保存)	2017 年 尼崎市と地域連携に関する包括協定を締結
1987 年 フィジーの南太平洋大学と姉妹提携	そのだ子育てステーションびびよ、そのだスポーツ栄養ナビステーション開設
1988 年 オーストラリアのブリスベン教育大学と姉妹提携	2018 年 園田学園創立80周年
1989 年 近松研究所を設置	2019 年 園田学園が格納が園田学園女子大学附属の認定こども園(幼稚園型)に
1990 年 クイーンズランド工科大学(ブリスベン教育大学を吸収合併)と姉妹提携	2021 年 大学に経営学部ビジネス学科開設



建学の精神

捨我精進

基本構想

[ミッション／使命]

教育

- 経験値教育により、他者と支えあう人間を育成する。
- 社会的、精神的、そして経済的に自立した女性を育成する。
- 多様化する社会が直面する課題を発見し、解決できる実学を重視する。

研究

- 健康・教育・経営・生活に関わる基礎的研究を力に、社会が求める独自の応用的・実践的な研究を推進する。
- 「スポーツを支える人材育成に係る研究」を推進する。
- 「地域づくり・地域資源の活用に係る研究」を推進する。

社会貢献

- 地域とともに歩みつつ発展する大学として、人と人の「つながり」を大切に社会貢献を行う。
- 地域の活性化と課題解決のための地(知)の拠点となる。

大学理念

[ビジョン]

凛としてしなやかに、地域とともに、社会をきりひらく女性の育成

1
教育について

基本方針 大学理念「凛としてしなやかに、地域とともに、社会をきりひらく女性」の育成を基盤に、経験値教育により、他者と支えあう人間の育成を目指す。「経験値教育」とは、自己の経験を客観化することにより、その蓄積を成長の糧とする循環型の教育である。経験値教育を実質化し、教育の質、教育方法を継続的に検討・改善し、教育力を向上、強化する。

行動目標
[第1期]

- 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に従い、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を明確化し、授業科目レベルで具現化し、教育力を強化する。(経験値教育の確立)
- 「経験値」を学位プログラムレベル・授業科目レベルで可視化できるよう指標を明確化する。
- 複雑化、高度化する新たな社会における社会課題に向きあうため、学部・学科の専門教育を充実させるとともに、横断的カリキュラムを充実させる。
- 内部質保証システムのPDCAサイクルを機能させ、教育内容および教育力の向上をはかる。
- 高大連携・高大接続の強化をはかることで、教育効果を向上させる。

2
学生支援について

基本方針 豊かな人格形成に資する学生生活を支援する観点から、学生をめぐる現状と課題を踏まえ、「学生生活の場として大学に求められる学生支援・学習環境整備」と「社会や学生から大学教育に求められる多様なニーズに対応する総合的な学生支援」を念頭に置き、「学生の視点に立った大学教育」の充実を図ることを目的とする。学生の主体性を尊重し、一人ひとりを大切にしたい、入学から卒業に至るまでの「総合的な学生支援」を組織的に行うことによって、学生自身の自立を促し、帰郷意識を醸成し、責任ある行動がとれるよう目指す。

行動目標
[第1期]

- 学生の修学目標が達成できるよう、学修支援体制をさらに整備・強化する。
- 多様な個性を持つ学生の視点にたった生活・健康支援を強化する。
- 学生の自立と責任感を醸成し、自分らしい人生を送ることができるようキャリア・就職支援を強化する。
- 修学の基盤となる学生生活について、奨学金制度の整備を含めて、一人ひとりを大切にし、個人が尊重される支援を強化する。

3
研究支援について

基本方針 確かな教育力の基盤は優れた研究にあるという考えのもと、幅広い研究分野を有する本学の研究支援体制を地域や社会の要請に応じて充実させる。そこで得られた研究成果や専門知識を社会に還元・普及させることで社会の発展に寄与する。

行動目標
[第1期]

- 研究プロセスの明示公開を進めるとともに、研究成果の発信を強化する。
- 研究成果と社会を結ぶことにより、多様化する社会課題の解決に寄与し、社会実装できる仕組みを構築する。
- 外部研究資金を獲得するための、研究支援体制を確立する。

4
社会連携について

基本方針 人生100年時代の多様化する社会の要請に応えるため、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる多様な学びの機会を提供するとともに、本学の教育研究成果を広く社会に還元し、地域社会の発展に寄与する。

行動目標
[第1期]

- 大学の教育・研究のシーズと地域のニーズをマッチングする場を整備し、地(知)の拠点としての役割を確立する。
- 産業界との連携強化により、産官学連携による社会貢献活動を積極的に推進する。
- 40年以上の生涯学習の実績をふまえ、「地域とともに歩む大学」として多様な講座を開講する。
- これまでの国際交流と教育関連への地域貢献を基盤とし、地域と世界を結びつける交流拠点として海外提携大学との連携を深め、広く地域社会に還元していく。

5
管理運営体制について

基本方針 多様化する教育環境に対応しつつ、本学の建学の精神、教育理念を実現していくために、教育研究活動及び学生生活全般を支援し、法令遵守のもと、大学運営を支える専門的な知識・技能・業務遂行能力を備えた職員を育成し、資質、能力の向上に努める。

行動目標
[第1期]

- 学長のリーダーシップとガバナンス体制を確立、強化する。
- 教職員相互の理解や目標・方針の共有や一致を目指すため、教職協働体制を構築する。
- 専門的な能力を生かすことができる人材を育て、将来的に幅広く活躍できる人材を育成し、労働条件を改善する。
- 学園の校舎の老朽化、耐震性の強化において、計画的に校舎改築の資金へ優先的に配分する。
- 全学の収容定員充足率を100%とし、財政基盤を安定、強化する。